

## 第251回 番組審議会

1. 日 時 平成28年4月12日 (火) 12:00～
2. 場 所 メトロポリタン盛岡NEW WING 3F「星雲 東の間」
3. 委 員 委員総数 10名  
出席委員数 10名 (欠席委員数 0名)

### ○ 出席委員 (敬称略)

鈴木 厚人 (委員長)  
九萬原 敏巳 (副委員長)

—以下50音順—

石田 征広  
加藤 裕一  
久慈 浩介  
斎藤 純  
菅原 正二  
八木橋 伸之  
役重 真喜子  
吉田 浩次

### ○ 会社側出席者 (6名)

佐藤 滋樹 (代表取締役社長)  
小原 忍 (取締役副社長)  
藤原 銀司 (常務取締役報道局長)  
前田 秀男 (取締役技術局長)  
近谷 利政 (報道部仙人部長)  
井上 智晶 (報道部)

### ○ 事務局 佐々木 久仁子

4. 議題 『m i t 報道特番 響け！復興の槌音  
～東日本大震災から5年をともに考える～』  
平成28年3月6日(日) 13:30～14:55放送

#### 5. 議 事 概 要

今回は、3月6日放送の「m i t 報道特別番組 響け！復興の槌音～東日本大震災から5年をともに考える～」を審議しました。審議の概要は以下の通りです。

##### ●岩手めんこいテレビ報道部近谷専任部長からの説明

- ・震災発生から5年となった今回は、これまでの復興の歩みと浮かび上がってきた課題、問題点について生放送で伝えた。
- ・これまでの60分から90分番組に放送時間を長くし、中継を2箇所を増やした。90分の番組だと間延びするのではないかと思っただが、中継を2箇所にし、スタジオゲスト2人の話を時間を割いて聞くことができたので、視聴者には飽きずに見てもらえたのではないかと考えている。

##### ●岩手めんこいテレビ井上ディレクターからの説明

- ・テーマの選定にあたって、5年間の復興の歩みをしっかり振り返りたいと考えた。そして振り返るだけではなく、直面する課題も捕らえ視聴者が何かを考えるきっかけになればと思った。その際、視聴者に考えを押し付けるのではなく、ともに考えるスタンスを大事にした。
- ・スタジオゲストには、ジャーナリストの視点を持ちつつ市民目線で悩みや不安を代弁してくれるということで安田奈津紀さん、より専門的な立場という意味合いで復興計画の土台を作った元岩手大学学長の藤井克己さんをお願いした。2人の意見により深く考察する相乗効果を期待した。

●出席した委員からの意見

- ・全体的に抑えて淡々と伝え分り易い構成だった。
- ・濃い内容で見ごたえのある番組だった。阪神大震災の復興後を取材していたのも良かった。
- ・人口の多い神戸でさえあの状況なのだから、何兆円もかけて未来のゴーストタウンを作っているようなものだとこの番組を見て教わった。
- ・丁寧で真面目な番組で、誠実さを感じる番組作りだった。寿司屋の親父さんが登場したあたりからリアリティが増してバランスが良かったと思う。
- ・震災から5年が経っているので、そろそろ検証的な部分も入れないと最後に検証する時には忘れてわからなくなってしまう。立派な商店街を再建しても人口減少でゴーストタウン化している神戸のようにならないために、できれば実務を担当している市の担当者なども入れて討論しておくのと検証する時にいいのではないかと。
- ・工事費の上昇をどのように考えているのか。陸前高田市が建物を建て始める頃に予算が足りなくなることはわかっている、これをどうやっていくのか。現場を預かっている人たちから意見を聞いておくべきではないかと。
- ・コメンテーターの2人の選択も、戸羽太陸前高田市長、三陸鉄道の望月正彦社長のインタビューも良かったが、岩手県側のコメントもあれば良かった。
- ・生活・暮らしはもちろんだが、仕事、事業、生業がどうなっているのかが関心のあるところ。製造業、漁業についても知りたかった。
- ・定点観測で見せるところに、「何年何月時点」という表示を入れてほしかった。

- ・復興格差という問題点を復興計画を策定した委員長が言った意味は大きい。それをスルーし、その後の展開やコメントが無かったことが引っかかった。
- ・人が減っていく中、何兆円もかけてゴーストタウンをつくったという神戸の教訓を東日本大震災の復興でどう活かすのか。行政の建前と番組が課題提起したかったことが噛み合っていないと感じた。
- ・簡単に掘り下げられる問題ではないが、正面から課題の入り口を見せてくれたことは良かった。次の番組では課題を掘り下げが進むことを期待する。
- ・場所の定点観測だけではなく人の定点観測がすごく良かった。震災の時にバスの誘導をしていた小学生が高校生になっていたり、高校生が社会人になっている様子から5年を改めて考えさせられた。
- ・90分という長い番組だったが、時間を感じさせない見やすいまとめ方だった。視聴者も番組を見ながら一生懸命考えさせられたと思う。
- ・阪神淡路大震災の教訓が今回の復興にどれだけ学びとして活かされているのかと重く感じた。
- ・番組を90分間見て、課題も多く内容が重くて疲れた。ホッとするような頑張っている人をもう少し入れて欲しかった。
- ・3年後と5年後の番組では、内容が違うはず。今回は3年後の番組という印象。復興というのは時間と共にどのように立ち上がっているのかある程度予測することも必要だったのではないかと。復興のスピードとはどのようなものか先のことを考え、そのような面も検討した方がいいと思った。

- ・「人口減に見合う復興をするべき」といった意見があることも踏み込んで伝えることが、将来の子供たちのために役立つのではないかという気がする。

以上

6. 審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置

特になし

7. 審議機関の答申意見概要を公表した場合におけるその公表内容、方法及び年月日

※平成28年4月13日（水） 産経新聞 東北版

※平成28年4月23日（土）午前4時12分から4時15分まで

「めんこいテレビ番審リポート」として放送。

※据え置き書類を作成し、本社受付に置き一般の人々が自由に閲覧できるようにした

8. その他の参考事項

特になし

※次回は、平成28年5月10日（火）12時より 当会場にて開催予定です。